

6 学校教育

2021年度（令和3年度）主要施策

《「たくましく生きる力」を育成する学校教育の推進》

1 自ら考え学ぶ授業の推進

(1) 行動化できる学びを確かにする小中一貫教育の推進

全中学校区で、小中一貫教育カリキュラムに基づき「自ら考え学ぶ授業」づくりに取り組み、21世紀型“スキル&倫理観”を育て、学んだことが行動化できる「福山に愛着と誇りをもち、変化の激しい社会をたくましく生きる子ども」を育てる。

① 持続発展教育（ESD）推進事業

自校、中学校区で目指すSDGs（持続可能な開発目標）を設定し、人格の発達や人間性及び「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育む持続発展教育（ESD）を推進する。

② 小中一貫教育推進事業

- ・ 小中一貫教育カリキュラムに基づく「自ら考え学ぶ授業」への転換
- ・ 教員の授業づくりを確保するための校務補助員や、学校図書館を活用した学習活動や環境整備等の支援を行う小中一貫教育学校図書館補助員の配置

③ 小学校「学びづくりフロンティア校」事業

子どもの学びが教科や学年の枠を超えて広がることを踏まえ、指定校を中心に、学びがつながるカリキュラムを編成・実施し、取組や成果等を市全体に還元することを通して、学習意欲や主体的に学び続ける力を高める。

④ 中学校「教科の専門性パワーアップ」事業

○ 福山ティーチャーズ・アカデミー

生きた知識を獲得する過程（学びのメカニズム）や学習者主体のICT活用の在り方（デジタル・シティズンシップ）等を理解し、「子ども主体の学び」を実現するために、これまでの教育の在り方や価値観を問い直し、自己課題を踏まえた研究テーマを設定し、実践研究を行う。

○ 探究学習プログラム実践指定校

民間のプログラムを活用した、答えのない問いを協働的に解決・創造・実践する探究学習を通して、全ての子どもが「学びが面白い」と実感し、主体的に学びに向かう力を発揮できるようにする。

⑤ 「学力の伸びを把握する調査」事業

児童生徒一人一人の学力の伸び及び非認知能力（学習意欲、自己肯定感等）の変容を経年的に把握し、自校の「子ども主体の学び」づくりの取組を評価し、個に応じた学びの在り方を工夫する。

⑥ 学校図書館環境整備事業

- ・ 子どもたちが多種多様な情報に触れることのできる本の充実や、自発的に本を選び、親しむことのできる環境整備に取り組み、学校図書館を子どもたちの知的好奇心を醸成する開かれた学びの場とする。
- ・ 各学校が、児童生徒の実態に応じて日常的に環境づくりを進め、利活用を促進するために、学校図書館の利用状況（利活用者数、貸出冊数等）の記録及びアドバイザーを講師とした研修を実施する。

⑦ 芸術文化体験事業

小学校、義務教育学校4年生全員が、優れた芸術文化に触れる体験を通して、豊かな創造力・想像力や思考力等を養う。

⑧ キャリア教育推進事業

児童生徒の資質・能力の育成に向け、小学校と中学校が連携して、「社会に開かれた教育課程」の視点で、地域や産業界との連携によるキャリア教育の充実を中核としたカリキュラムを開発・実践し、その成果を検証・普及する。

(2) 行動化できる学びを牽引する中高一貫教育の推進

生徒一人ひとりの進路実現を図るため、教育環境及び指導体制の充実を図り、6年間の計画的、継続的な指導を行う。

① 学力向上推進事業

I C Tを活用した探究的な学習や難関大学合格支援プログラム等を通じて、生徒のキャリア開発能力の育成及び学力向上を図るほか、教職員の指導力向上のため、研修や研究会を実施する。

② グローカル人材育成事業

高等学校の生徒を対象に、地元企業の研究・学習を通じて生徒と地域社会を結びつけることにより、生徒に福山に対する愛着と誇りを育てるとともに、地域課題解決能力の育成を図り、新たな学力観に基づき進路選択ができるようにする。

また、中高を通して海外への語学研修や姉妹校等との国際交流・国際体験を基盤に、次代においてグローバルな社会で活躍する人材を育成する。

(3) 外国語教育・国際理解教育の推進

グローバル化の進展に伴い、子どもたちが主体的・積極的に国際社会に貢献していくために、自国や地域の伝統文化を理解し、世界の多様な伝統や文化、考え方を受け入れながら、コミュニケーションを図ろうとする態度や多様な価値観を育成する。

① 英語教育推進事業

児童生徒が、授業だけではなく休憩や昼食時等、学校生活の様々な場面で直接異なる文化や言語に接する機会を増やすため、外国語指導助手(A L T)を幼稚園、小学校、中学校及び義務教育学校に平均月4回程度派遣する。

② 外国語「ラウンドシステム」事業

4技能5領域(聞くこと・読むこと・話すこと[やり取り]・話すこと[発表]・書くこと)の総合的な定着を目指す「ラウンドシステム」を導入した授業の研究・実践を通して、生徒が自分の考えや気持ち、事実などを英語で表現することができる力を育成する。

③ 北京市教育交流推進事業

中・高校生、義務教育学校後期課程の生徒が、多様な価値観に気付き、自身の視野を広げることができるよう、主体的に学ぶことのできる場となる教育交流を行う。

(4) 教科の専門性を高める教職員研修の充実

全ての研修を「子ども主体の学び」づくりに集中・関連させ、教職員の授業力と専門性の向上を図る。

① 全校一斉研修の実施

全ての教職員が「子ども主体の学び」を展開するために、各校は、「学び」を探究するテーマを設定し、テーマに基づいた校内・中学校区研修を原則第3木曜日の午後に市内一斉に行う。その内、中学校、義務教育学校後期課程は、教科担当が集まる教科別研修を行う。

② 教職経験に応じた研修の実施

初任者や中堅教諭等、教職経験に応じて、「福山100NEN教育」の理念に基づき、「学びが面白い！」の深化に向け、授業等、教育活動全般に係る研修を実施する。

また、福山市立大学大学院や、こども発達支援センターと連携し、現職教員を長期研修として派遣し、本市教育研究の推進や指導的な役割を担うことのできる人材の育成を図る。

(5) 教育課程を中心に据えた学校経営

全小中学校、義務教育学校において校長のリーダーシップのもと、「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向け、編成した教育課程を基に、日々の授業を中心とした教育活動の評価・改善を進めるために、校内研修を実施し、カリキュラム・マップに基づいた授業づくり、行事の見直し等を行っている。

2 市民一丸となった取組の推進

(1) 学校・家庭・地域で目標やビジョンを共有して進める教育活動

学校関係者評価において、学校が教育活動を振り返って成果、課題を分析し、改善案を示すことを通して、保護者や地域の方々と目標やビジョンを共有する。

(2) 市民一丸の機運の醸成

① スクールサポートボランティア事業

学校教育活動の充実及び地域の教育力の活性化を図るため、地域住民や保護者のボランティアが、登下校時の見守り、総合的な学習の時間に係る支援、読み聞かせや図書整理といった学校図書館業務支援等の活動を行う。

② 地域学習活動支援事業

地域に在住している退職教職員や地域住民等の支援を得て、小学校4年生から6年生までの児童を対象に国語・算数を中心とした基礎的な内容の学力補充を行うとともに、学習意欲の向上と学習習慣の定着を図り、中学校での学習の基盤を作る。

・放課後チャレンジ教室（31教室）…小学校の特別教室等で週1回実施。

実施する小学校に在籍する児童が対象。

・土曜チャレンジ教室（2教室）…中学校区の公民館等において週1回実施。

中学校区の小学校に在籍する児童。

③ 福山学校元気大賞の実施

児童生徒が社会や誰かのために主体的に貢献した活動や主体的に取り組んだ作品・探究に対するもののほか、教職員の丁寧な取組及び学校と地域が一丸となった教育活動等について、教育長が表彰する。

3 子どもの学びを支える教育環境の整備

(1) 望ましい学校教育環境の整備

① 学校規模・学校配置の適正化

少子化が進む中、一定の集団規模を整え、子どもたちに主体的・対話的で深い学びを通して変化の激しい社会を生きていく力を育む。

○ 学校再編事前事業

開校準備委員会の設置・開催、児童生徒の事前交流事業の実施、教育課程の編成等

○ 学校施設の整備

想青学園（義務教育学校）の敷地造成及び校舎改築等、加茂小・中学校及び新市中央中学校の大規模改修等

○ 通学支援事業

スクールバス運行業務委託

② 学校施設の耐震化

学校施設の耐震化については、校舎等の老朽化に対応すべき建替え等も含めて、計画的に進める。

○ 校舎改築

小学校…西小、戸手小、常金丸小（設計） 中学校…城北中、神辺中

③ ICT教育機器の整備

児童生徒の主体的な学びづくりを推進するための教育環境を整備する。

- 小学校の普通教室へ電子黒板を整備
- 福山中・高等学校の普通教室及び特別教室（音楽室・社会科教室）へ電子黒板を整備

④ 屋内運動場床改修

児童生徒の学習環境の改善を図るため、老朽化した床の塗装替え又は全面張り替えを実施する。

小学校3校，中学校2校

⑤ 部活動指導員の配置

部活動指導の充実と教職員の負担軽減を図るため、外部人材を活用した部活動指導員の配置を行う。

中学校・義務教育学校（後期） 56人

⑥ 多様な学びの場の整備

- 特認校及びイェナプラン教育校の設置に向けた準備（教育課程の編成，職員研修，施設整備等）
 - ・ 特認校（広瀬学園）
…集団への適応が難しいなど，教育上の配慮が必要な子どもたちを対象とした小・中学校の施設一体型校。「自立」と「共生」に向けた多様な学習活動を通して，一人一人の成長を大切にしている学校。
 - ・ イェナプラン教育校（常石ともに学園）
…異年齢集団を編成し，4つの基本活動である対話・遊び・仕事・催しに基づいた時間割を編成。2020年度（令和2年度）から1年生から3年生の異年齢集団での教育活動を先行実施。
- 福山市フリースクールかがやき及びきらりルーム
集団で学ぶことの苦手な児童生徒が，学校・教室以外で選択できる学びの場の1つとして設置。現在は，中学校6校（東中，城南中，城東中，中央中，誠之中，神辺中），小学校2校（曙小，新涯小）に，校内型のきらりルームを，市内3か所（中央・東部・西部）に，福山市フリースクールかがやきを設置している。

⑦ 教育環境整備

公共及び民間のプール施設を活用した水泳授業の実施

- ・ 公共施設（松永健康スポーツセンター，福山通運ローズアリーナ，うつみ市民交流センター）
…小学校7校（南小，光小，本郷小，柳津小，金江小，内海小，内浦小）
- ・ 民間施設（セントラルフィットネスクラブ福山，スポーツクラブ・ビッグラン，福山スイミング，ルネサンス福山春日）
…小学校7校（霞小，有磨小，福相小，長浜小，引野小，泉小，津之郷小）

⑧ 学習指導員の配置

児童生徒一人一人にあったきめ細かな対応を実現し，また，新型コロナウイルス感染症の対応のため，教師や学校教育活動を支援する人材を配置する。

小学校，中学校，義務教育学校，福山高等学校 110人

⑨ 給食調理場設備整備

新型コロナウイルス感染症対策及び熱中症対策として換気設備や厨房機器を整備する。

実施箇所…手城小，御幸小，春日小，久松台小，新涯小，山手小，川口東小，道上小，遺芳丘小，沼隈給食センター

(2) 子どもの安心・安全対策の充実

① 福山市通学路交通安全プログラムに基づく対策の実施

「福山市通学路交通安全プログラム」に基づき、基本的に2年に1回、地域や関係機関・団体と連携して危険箇所を合同点検するとともに、連携して安全確保の対策を進める。

② 避難訓練の実施

児童生徒自らが主体的に行動できる力を育成するため、休憩時間等に児童生徒が自らの判断で避難する訓練や予告無しに行う避難訓練を小学校、中学校及び義務教育学校で実施する。

(3) 教育上特別な配慮を必要とする子どもへの支援の充実

① 学校での欠席者への取組

欠席が多い児童生徒に対し、各学校は担任が中心となって家庭訪問を行うほか、福山市フリースクールかがやき（中央・東部・西部）等の関係機関と連携する中で、家庭での学びを支援する。

また、欠席者が多い2小学校・6中学校の校内に教室以外の居場所として「きらりルーム」を設置し、児童・生徒のペースで学習・体験活動を行うほか、専任の担任等が家庭訪問を行い、生徒や保護者の状況や希望に応じた取組を進める

② 特別支援教育体制推進事業

障がいのある児童生徒の教育の充実を図るため、特別支援学級に介助員、障がい児指導員及び看護介助員を配置するほか、通常の学級に在籍する発達障がいのある児童生徒について学校支援員を配置する。

発達障がい及び言語障がいにかかわる専門家が幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校及び高等学校への巡回相談を実施し、学校における発達障がい等のある幼児、児童生徒への支援の充実を図る。

特別な支援が必要となる可能性のある就学前児童について、円滑に就学先の決定ができるよう、関係機関等との連絡調整や、情報収集等を行う就学相談員を配置する。

(4) 就学支援の充実

① 就学援助

経済的な理由によって、就学困難と認められる児童生徒の保護者に対して、学校給食費、学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、入学準備費、医療費、オンライン学習通信費の一部を援助する。

【援助の状況】

(単位：人，%)

区分	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R元)	2020(R2)
小学校	3,748 (14.9)	3,700 (14.7)	3,809 (15.0)	3,531 (13.9)	3,450 (13.7)
中学校	2,251 (19.2)	2,163 (18.7)	2,065 (18.2)	2,060 (17.6)	2,013 (17.1)
計	5,999 (16.2)	5,863 (15.9)	5,874 (16.0)	5,591 (15.1)	5,463 (14.7)

※人数は準要保護認定者及び要保護対象者の合計。

() は、市立学校における児童生徒に占める割合

② 奨学金

有用な人材の育成に寄与するため、学習意欲がありながら、経済的理由により修学が困難な者に対して学資を貸与するほか、大学等への受験や入学が困難な青少年に対して大学等への進学を支援するため、受験資金や入学準備金を貸与する。

ア 福山市奨学資金（対象：大学・短大・専修学校等）

修学資金	月 額	国公立	40,000 円
		私 立	60,000 円
入学準備金	修学資金貸与決定者が対象		500,000 円以内

イ 誠之奨学金（対象：高校・高等専門学校）

奨学金	月 額	国公立	10,000 円
		私 立	20,000 円

ウ 福山市青少年修学応援奨学金（対象：大学・短大・専修学校等）

受験資金	受験前に貸付け	200,000 円以内
入学準備金	受験結果報告後（入学前）に貸付け	800,000 円以内

※卒業等の所定の要件により返還を免除する。

【貸付の状況】

（単位：人）

区 分		2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R 元)	2020 (R2)
福山市奨学資金	新規貸付	23	21	25	16	20
	継続貸付	68	67	58	53	44
	計	91	88	83	69	64
誠之奨学金	新規貸付	3	5	6	6	1
	継続貸付	12	9	5	10	11
	計	15	14	11	16	12
福山市青少年 修学応援奨学金	受験資金	11	10	11	11	10
	入学準備金	11	12	11	11	11

(5) G I G Aスクール構想の推進（新規）

デジタル世界において、人権と民主主義のための善き社会を創る市民となることを目指す「デジタル・シティズンシップ教育」に基づき、端末を学習者中心の文具として日常的に活用し、学習意欲や情報活用能力を含めた学力の向上を図る。

※ デジタル・シティズンシップ教育

…日常的な I C T の活用を前提に、デジタルに関連する人的、文化的、社会的問題を理解し、責任を持ちポジティブに利用する能力とスキルを育む教育。行動規範やルールを教え徹底するこれまでの「情報モラル教育」と異なり、行動の善悪を自分で判断できる力を身に付けることを目的とする。

① 日常のデジタル化による学習者主体の I C T 活用

- ・ 日々の授業を中心とした教育活動における、情報検索、文書作成、表計算、プレゼンテーション等の機能の活用
- ・ オンラインによる資料配付、宿題や課題の配信・提出・添削・返却、アンケートの実施と集計、保護者会や個人面談等、クラウドツールの活用

- ・ 各学校の実態に応じて選択・決定したEdtech（A I型ドリル教材等）の活用
 - ・ I C Tの日常的な利活用を前提とし、安全かつ責任を持って行動するための理由と方法を主体的に考えるデジタル・シティズンシップ教育の推進
- ② 教職員のI C T活用スキル向上
企業等との連携による習熟度に応じた教職員研修の実施
- ③ 学習者用デジタル教科書実証事業（文部科学省）
小学校5・6年，中学校1～3年，義務教育学校5～9年の児童生徒を対象に，学校が選択した1教科のデジタル教科書を導入し，アニメーション，参考資料，作画・描写など，様々な機能を活用した主体的・対話的で深い学びを推進する。
- ④ オンラインによる学習機会の保障
- ・ 校内外のフリースクール，家庭など，児童生徒が自ら学びの場を選択・決定し，オンラインで学習できる環境及び仕組み（評価，出席の基準等）の充実
 - ・ 新型コロナウイルス感染拡大による臨時休業等の緊急時における積極的なオンラインの活用
- ⑤ ヘルプデスクの導入
児童生徒用学習端末に係る不具合や，操作に関する問い合わせができる24時間対応の相談窓口を設置する。

◆福山市研修センター・福山市教育相談センター

学校教育における今日的課題を踏まえ、教職員の教科指導、生徒指導等の実践的指導力の向上及び社会と
その変化に対応する資質・能力の向上を図るための教職員研修事業や、教育相談事業の充実を図る。

【センターの概要】

名 称	福山市研修センター	福山市教育相談センター
所在地	引野町南一丁目 17 番 31 号	北吉津町四丁目 13 番 5 号
電話番号	084-943-5516	084-924-5556
開設年月日	1994 年（平成 6 年）4 月 1 日	2016 年（平成 28 年）4 月 1 日
延床面積	587.99 m ²	894.71 m ²
開館時間	月～金曜日 午前 9 時 30 分～午後 5 時	月～金曜日 午前 9 時 30 分～午後 4 時
事 業	<p>①教職員研修講座の開催 全ての研修を「子ども主体の学び」づくりに集中・関連させ、教職員の授業力と専門性の向上を図る。</p> <p>②研修環境の充実 教職員研修等において、研修室等の施設を提供し、研修を促進する。</p> <p>③福山市フリースクールかがやき（東部） 集団で学ぶことの苦手な児童生徒が、学校以外で選択できる学びの場の 1 つである。一人一人が違うことを前提に、自分のペースで学んだり、仲間とともに活動したりすることを通して、社会性やコミュニケーション能力を育成する。</p> <p>・開設日：月～金曜日 ・時 間：午前 10 時～午後 3 時</p>	<p>①教育相談 学校や家庭において、いじめ・不登校等様々な悩みをもっている幼児、児童生徒にかかわる教育相談を行う。</p> <p>②福山市フリースクールかがやき（中央） 集団で学ぶことの苦手な児童生徒が、学校以外で選択できる学びの場の 1 つである。一人一人が違うことを前提に、自分のペースで学んだり、仲間とともに活動したりすることを通して、社会性やコミュニケーション能力を育成する。</p> <p>・開設日：月～金曜日 ・時 間：午前 10 時～午後 3 時</p>

※このほか、松永コミュニティセンター内に福山市フリースクールかがやき（西部）を設置

場 所：松永町四丁目 1 4 番 1 号 松永コミュニティセンター内

開設日：月～金曜日

時 間：午前 10 時～午後 3 時

◆学校給食の状況 2021年（令和3年）5月1日現在

(1) 実施状況

区 分		総 数	完全給食			ミルク給食
			単独調理場 方 式	共同調理場 方 式	親子方式	
幼稚園	幼稚園数（園）	9			9	
	園児数（人）	311			311	
小学校	学校数（校）	74	65	8	1	
	児童数（人）	24,641	23,113	1,526	2	
中学校	学校数（校）	34		7	27	
	生徒数（人）	11,360		1,530	9,830	
義務教育 学校	学校数（校）	1	1			
	児童数（人）	130	130			
	生徒数（人）	70	70			

※親子方式：親校（小学校）で調理した給食を子校（中学校）へ搬送する方式。

ミルク給食：ミルク（牛乳）を提供し、弁当を持参。

(2) 1食あたり給食費

幼稚園 255円（主食50円 副食147円 牛乳58円）

小学校 255円（主食49円 副食150円 牛乳56円）

中学校 290円（主食62円 副食172円 牛乳56円）

(3) 給食センター

名 称	福山市新市給食センター	福山市沼隈給食センター
所在地	新市町大字新市 885 番地	沼隈町大字下山南 1252 番地
電話番号	0847-52-5542	084-987-0380
開設年月日	1967年（昭和42年）2月 [2013年（平成25年）10月新築移転]	1967年（昭和42年）4月 [2001年（平成13年）3月新築移転]
延床面積	1,083.55㎡	576.34㎡
職員構成 （臨時職員含 む）	所長1名，栄養士2名，技術員11名	所長1名，栄養士1名，技術員9名
調理数	2,027食 （内訳）戸手保育所 79 網引保育所 42 常金丸小学校 148 網引小学校 260 新市小学校 222 戸手小学校 431 駅家中学校 395 常金中学校 50 新市中央中学校 400	1,405食 （内訳）能登原小学校 53 千年小学校 318 常石小学校 118 山南小学校 120 松永中学校 358 精華中学校 114 千年中学校 216 至誠中学校 108